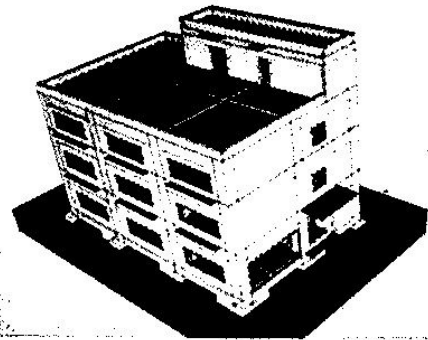


デスク
サーバ
オート
日積サ

IFC使わずデータ連携

BIMの積算が効率化

オートデスクと日積サーベ
イは、中間フォーマット「I
FC」を使わずにBIM(ビ
ルディング・インフォメーシ
ョン・モデリング)データを
ダイレクトに共有するソフト



日積サーベイ『HEARION(ヘ
リオス)』の最新版ではオートデ
スク『Revit(レビット)』
のBIMデータをダイレクトに取
り込めるようになる

間連携の環境を構築した。デ
ータ連携時の作業時間はIF
Cを使った場合に比べ10分
1に短縮する。これを足がか
りに両社はそれぞれ他のソフ
トベンダーとのシステム連携
を強める方針。建築プロジェ
クトのBIM導入が拡大する
中、ベンダー間のダイレクト
連携は今後加速しそうだ。

これまでオートデスクのB
IMソフト『Revit(レ
ビット)』から日積サーベイ
の建築積算システム『HEA
RION(ヘリオス)』へのデ
ータ連携は、IFCファイル
をベースに進めてきた。12月
発売の最新ヘリオスには、ロ
ーカルファイル(TSVファ
イル)によるデータ連携機能

を盛り込む。日積サーベイが
レビットのAPI(アプリケ
ーション・プログラム・イン
ターフェイス)を使ってアプ
リケーションを開発し、BIM
データから必要な情報を取
り込めるようにした。

ヘリオスではIFC連携の
際にできなかった建具のガラ
スや階段、雑物まで幅広く連
携ができるようになり、ユー
ザーにとっては数量算出や見
積もり作成の作業時間短縮だ
けでなく、使い勝手も増す。
BIMフォーマットとして知
られるIFCだが、データ容
量の増大などにより、ソフト
間のデータ連携に時間がかか
り、使い勝手を指摘する声が高
まっていた。

ダイレクト連携は、オート
デスクにとってNYKシステ
ムズの建築設備専用CAD
『Rebro(レプロ)』に
次ぐ2例目。日積サーベイに
とっては初めてだが、生島宣
幸社長は「IFCの有効性は
あるが、現時点ではダイレク
ト連携の方がより効率的であ
り、ヘリオスユーザーのため

にも他のBIMソフトとの連
携を今後も進めていきたい」と
強調する。

ゼネコンや設計事務所のB
IM導入が加速する中で、積
算や設備など専門領域へのB
IMデータ活用も増加傾向に
ある。より効果的にソフト間
のデータ連携環境を求めるニ
ーズは広がっている。